

特集「日常診療における感染症のトピックス」

巻 頭 言

京都府立医科大学大学院医学研究科
消化器内科学

伊 藤 義 人

肝炎に関して新聞やテレビで報道される機会が多くなった。先日の国会では「肝炎対策基本法案」が成立し、C型肝炎のみならずB型肝炎に関する行政当局の動きも活発化してきている。「肝炎対策基本法案」の趣旨説明においては、「日本国内には肝炎に罹患した者が非常に多く、このまま放置するとより重篤な疾病に進行してしまうと考えられ、すべての肝炎患者の救済を目的とした基本方針を定める」とされている。私は日本肝臓学会から肝臓撲滅運動京都府責任者に指名されていることもあり、医療従事者・市民を対象とした講演会を企画し肝炎の啓蒙活動に携わってきた。私の印象としては、C型肝炎のインターフェロンを中心とした治療に関する知識はマスコミ報道のためかなり浸透してきたと思われるが、B型肝炎に関する知識を十分持ち合わせている非肝臓専門医は極めて少ないと考えている。わが国ではHBワクチンの普及にともない若年者でのHBVキャリアーは減少しているが、B型肝炎ウイルス(HBV)の持続感染者は全世界で3億人以上存在し、わが国では欧米型(遺伝子型A)の感染拡大が問題となっている。当科でB型肝炎の臨床・研究

を中心的に行っている消化器内科学南講師にB型肝炎のトピックスを依頼した。

ピロリ菌についても多くの日本人が感染しているが、消化器内科医にとっても保険診療のこともあり治療すべきか否か迷う場面も多い。本年の日本ヘリコバクター学会ではピロリ菌感染者のすべてに除菌が推奨された。本学出身でヘリコバクターに関して造詣の深い大分大学医学部の山岡教授にそのあたりの解説をお願いした。われわれ内科医が外来診療等で悩まされることの一つに皮膚病変がある。皮膚病変の原因は、膠原病・薬疹をはじめウイルス感染から真菌・原虫にいたるまで多岐にわたりなかなか確診できないことが多い。この点、皮膚科学の加藤教授に皮膚感染症について解説いただいた。

最後に、新型インフルエンザに関する情報は刻々と更新されているが、最新の所見を感染制御・検査医学藤田准教授にお願いしたかったが、次の機会とさせていただいた。わが国では新型インフルエンザに関して、予防接種による健康被害の救済等に関する特別措置法案も成立しており、この分野での情報の供給が必要である。